

3月定例会市議会 市長総括説明から

3月5日、平成19年第2回市議会定例会が開かれました。市長から表明のあったまちづくりと市政運営にあたっての所信と、新年度に取り組む主な施策について概要をお知らせします。

■市政運営の所信■

第一に、私たちは、豊岡市基本構想の中で、市民みんなで目指すまちの将来像を「コウノトリ悠然と舞うふるさと」と定めました。その将来像の実現に向けて、市民と連携し、協働し、豊岡の空に笑い声を響かせながら歩んでいきます。

第二に、この地に固有の自然と、その自然の中で営々と積み上げ、築き上げられてきた歴史、伝統、文化に深く根ざしたまちづくりを進めます。第三に、「豊岡」に集まった6つの地域の個性をさらに

強め、磨き、連携・連帯を強化し、全体として輝きを増すまちづくりを進めます。

第四に徹底した行政改革に向け、努力を続けていきます。

第五に「対話と共感」のまちづくりを進めます。

第六に近隣市町との連携強化による但馬づくりを進めます。

「夢はでっかく根は深く」 私たちが根をはるべき場所 は、豊岡の自然、歴史、伝統文化であり、人々の心の中で。夢に向かい、「願うこと願い続けること投げ出さないこと」を信条に、市民の皆さんの期待に応えられるよう、誠心誠意を尽くします。

■平成19年度の主な施策■ 安全に安心して暮らせるまち

○安全を守るまちづくり
引き続き災害復旧事業を実施するほか被災者支援を行います。また、防災・減災力の向上のための治水・治山対策を進めます。さらに、消防・救急体制の充実を図るとともに、防犯対策など安全な暮らしづくりを進めます。

○安心しておだやかに暮らせるまちづくり
健診や相談業務など関係機関との連携を図った健康づくりを進めるほか、医療環境の確保、高齢者や障害者の支援、各種福祉施策や施設の整備、社会保障の適正実施などに努めます。

人と自然が共生するまち
人と自然が響き合う
戸島地区の湿地整備を進めるとともに、コウノトリの郷公園周辺は地産地消等を展開する環境経済型の経済・観光の拠点とします。また、コウノトリリズムでは、地元観光業者や旅行代理店との連携や、環境経済型企業の集積のための補助を行います。

循環型のまちづくり
ごみの減量・分別・適正排出などの啓発指導や不法投棄対策の推進、また、バイオマスタウン推進事業に取り組みます。さらに、学校給食センターから排出される廃食油の精製利活用を行います。

快適で美しいまちづくり
よりよい環境創造に向けた意識の高揚を図るためのクリーン・グリーン作戦の推進や、水道・下水道の整備などを進めます。

持続可能な「力」を 高めるまち

○地域経済を元気にする
まちづくり
市内に点在する観光資源の特色を活かし、ネットワークの構築を図ります。農林業では水田自然再生事業や農産物認証制度「コウノトリの舞」の推進、各種整備事業や支援事業を、また、水産業では漁業活性化を図るため、津居山沖の並型漁礁設置事業を行います。商工業では商店街の実施する活性化事業や商工団体への支援や（仮称）木屋町小路整備事業の建設工事に着手します。特産業および伝統工芸品については、豊岡かばん・杞柳細工・城崎麦わら細工・出石焼・但馬ちりめんなどの一層の振興を図ります。

○賑わいと魅力を創る
まちづくり
まち全体の将来ビジョンや土地利用のあり方等を総合的に定める都市計画基本方針の

地域別構想を策定します。また、地籍調査事業や住環境整備、北近畿豊岡自動車道、鳥取豊岡宮津道など道路網の整備を行うとともに、公共交通の充実、魅力ある景観の形成への取り組みや地域情報化計画を策定します。

未来を拓く人を育むまち
○健やかで心豊かな子どもを育むまちづくり
次世代育成支援対策・地域行動計画に基づき、子育て支援および少子化対策を総合的に進めます。妊婦健康診査費用の助成や、多様な保育ニーズに対応した延長保育・乳児保育・一時保育・障害児保育などのほか、病氣回復期にある乳幼児の一時預かりや重度食物アレルギー児の受け入れなどを行います。また、保育料の軽減措置の拡大、乳幼児医療費の対象者の拡充を行うとともに、本年、竣工予定の市営住宅に新たに子育て世帯の優先入居枠を設け、快適で安心して暮らせる住環境を提供します。

また、4月1日からは、子どもに焦点をあてた総合的

つ 一体的な施策を展開するため、保育所、子育て支援業務を教育委員会に移管し、0歳児から15歳児までの子どもの一貫した保育・教育を行うという理念に立ち、事業を展開します。

さらに、国内外の姉妹都市との交流を通じて、心豊かな人材育成や地域の活性化を図ります。

人生を楽しむ お互いを支え合うまち

○日々人生を楽しむ

まちづくり

豊かな自然の中で、歴史・伝統や香り高い優れた芸術・文化に触れることにより、お互いを尊重しつつ、誰もが日々の暮らしを楽しむことのできるまちづくりを進めます。

具体的には、「永楽館」の復原工事を継続し、その後の活用策について検討します。また、地区公民館や神鍋山周辺公園など各施設整備を進めます。

○お互いを支え合う

まちづくり

但東資母地域において、定住施策のモデルとして空家・空土地調査を行うほか、過

疎・辺地対策の実施、地域の活性化やコミュニティの活動促進を図る団体への支援を行います。

さらに、合併後の市の一体感、連帯感を醸成するため、市歌制定事業に取り組みます。

市政の運営

○特色ある地域の成長と連携

豊岡地域では、地域まるごと博物館や玄武洞公園の整備、総合健康ゾーン推進事業などを実施するとともに、環境経済戦略やコウノトリの野生復帰などの取組みを全国発信し、地域の活性化を図ります。さらに、豊岡かばんの地域ブランドの確立や人材育成を支援します。

城崎地域では、城崎温泉と市内各地の歴史・伝統・文化などの観光拠点を連携させ、滞在型観光を推進します。また、(仮称)戸島湿地の自然再生による自然環境保全や、日本有数のボートコースのB級公認更新に取り組みます。

竹野地域では、「快水浴場100選」「日本渚100選」に選ばれた竹野浜海岸など海を活かしたツーリズムにより、

参加型・滞在型の観光を進めます。また、自然体験活動の拠点として各地域との連携活動、「仲田光成記念豊岡竹野全国かな書展」の開催などで地域文化の振興を図ります。

日高地域では、四季を通じてスポーツのメッカ・観光スポットとして振興を図ります。また、郷土を代表する冒険家植村直己の功績を顕彰するとともに、子どもたちの生きる力を育む事業に取り組みます。さらに、国・県指定野菜であるキャベツなど特産農産物の振興を図ります。

出石地域では、伝統的建造物群保存事業の取組み、永楽館の復原や山名氏城跡やまち並み環境の整備を進めます。また、酒米フクノハナによる農業活性化の促進や鳥居やすらぎ農園などを活用した交流・体験型のグリーンツーリズムを促進します。

但東地域では、(仮称)但東北部温泉施設や太田虫生線の整備、農家民宿や空家・空土地を活用など地域資源と連携したグリーンツーリズムにより、交流人口の増加を図ります。また、チューリップま

つりや日本・モンゴル博物館事業の展開により地域活性化を進めるとともに、偉大な教育者東井義雄の遺徳を顕彰・継承し、子どもたちの生きる力を育む取組みを推進します。

6つの地域の豊富な資源を活かすとともに、防災行政無線、図書ネットワーク、子ども野生復帰大作戦、コウノトリツーリズムなどにより地域の連携を図り、特色ある地域づくりとまちの活性化をさらに推進します。また、地域の魅力や資源の再発見を通じて、まちへの誇りと愛着を高め、市民活動やコミュニティを生み出す契機となるよう、地域からの情報発信・情報交換を促進します。

○参画と協働のまちづくり

「参画と協働を推進するためのガイドライン」を策定します。また、「男女共同参画プラン」に基づく啓発や、多様化する市民ニーズや地域課題に対応するまちづくりを進めるための啓発活動を積極的に進めます。

○新しい時代にふさわしい

行政経営

行政改革大綱に基づき、効

率的、効果的な組織体制の構築および定員管理適正化を図り、政策決定・調整機能の充実や総合支所機能の見直しなどをを行います。

また、定員適正化計画に基づく職員数の削減や職員の意識、資質の向上のための研修等の支援を行います。

財政構造については、依存財源の割合が多く脆弱であり、持続可能な財政体質を築くため、中長期的な視野に立った財政計画を策定するとともに、徹底した行政改革を推進します。さらに、行政事務の効率化や市民サービス機能の向上のため、電子自治体に向けた取組みを進めます。

新庁舎建設については幅広く市民の意見を聴き、検討委員会の設置、基本構想、基本計画の策定などを進めます。さまざまな行政課題を解決するため、市町の枠を超えた広域的な役割分担、協調・連携が必要となっており、リーダーシップを発揮しながら但馬地域の行政課題の解決に努めます。

※新年度予算関係については、6ページに掲載しています。

※市ホームページに、「市長総括説明」の全文を掲載しています。